

左側の歩脚が三本の奇形ズワイガニ について¹

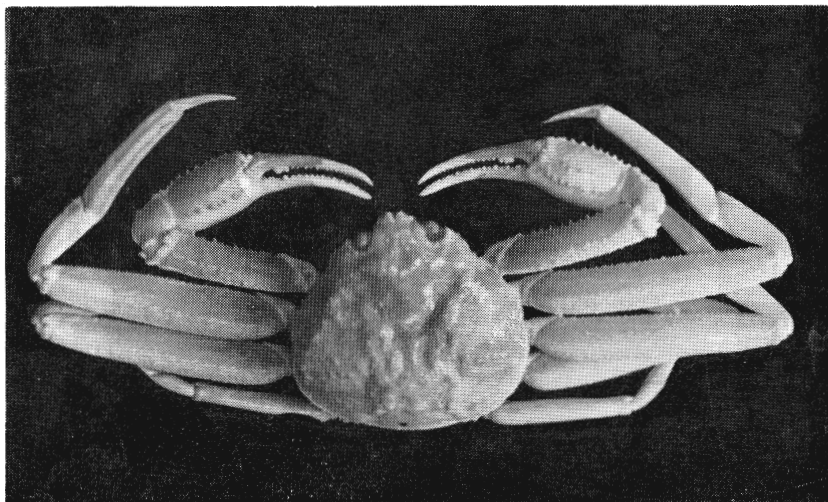
伊 藤 勝 千 代

筆者は主として山陰海域で漁獲されたズワイガニ *Chionoecetes opilio* O. FABRICIUS のなかから見出された奇形について、これまでいくつかの観察結果を報告してきたが(伊藤, 1956; 1960; 1965), 雌雄間性の例をのぞいてはほとんど鉗脚・歩脚など

見し, 読売新聞浜坂支局を経て研究用に寄贈されたものである。

採集年月日: 1966年2月17日

採集場所: 兵庫県美方郡浜坂町^{もろよせ}諸寄沖かに漁場,
水深320~340m, 底質泥



第1図 背面からみた奇形ズワイガニ

に関係した部分の異常再生にかぎられていた。ところが最近, 第1図に示すような左側の第3歩脚が失われ, 歩脚が三本になっている珍しい奇形標本を観察する機会を得たので, 以下あらましを記述することにする。

この標本は筆者が旧資源部第3研究室(兵庫県城崎郡香住町)に勤務していた際, 地元の美方郡浜坂町の鮮魚小売商宇野国雄氏が, ゆでがにに加工中発

標本の大きさ 性: 雄
甲長: 126.4mm,
甲巾: 130.5mm,
体重: 851g (ゆでがに)

観 察 結 果

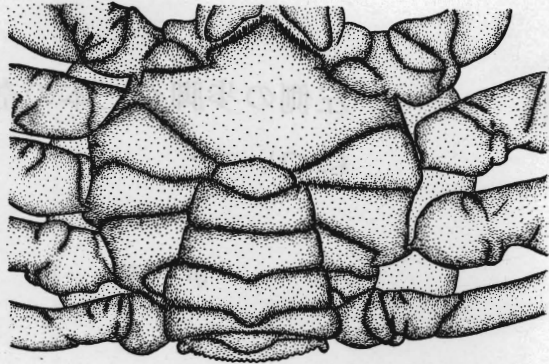
この標本は第1図のように背面側からみると, 左側の第3歩脚が欠けていること以外の形態はほとんど正常である。しかし, 腹面側をみると第2図に異常部分を拡大して示したように, 失われた第3歩脚の基節に連結する腹部胸甲の体節の形態が, 正常なもの(図では左側)と比較していちじるしい相異をひきおこしている。すなわち, 第5体節が, 第3歩

¹ KATSUCHIYO ITO: An abnormal form of the edible crab, *Chionoecetes opilio* O. FABRICIUS, with three legs in left side.

脚の欠けたため生じた空間をおおうように $1/3$ 程度の大きさに収縮し、そのため第4体節の下部部分が露出している。また、第6体節はほぼ中央にこぶ状の突起が生じている。このため、腹部胸甲の右側部分の下部がややせばまつた感じを呈している。

ズワイガニをはじめ一般に甲殻類では、失われた器管は比較的容易に、かつ短期間に再生することが知られているが(岡田, 1954), 器管の形態的縮小・退化についてふれた報告はあまりみられない。今回得られた標本の奇形化した原因を明らかにすることはできないが、ズワイガニの場合、自切現象を示す個体が比較的多く、また、これと相対的に再生現象を示す割合も高いこと(伊藤, 1958)から考えて、若い令期に第3歩脚が失われたまま、なんらかの原因によつて再生芽の新生が抑止されたため、ついに脚は再生されず、その直後の脱皮により前記のように腹部胸甲の体節部分を大きく変形させたものと推測している。

おわりに、貴重な標本を寄贈して下さった宇野国雄氏ならびに連絡の労をとられた読売新聞浜坂支局田村昭二氏のご厚意に対して深謝の意を表する。



第2図 腹面の奇形部分拡大図

引用文献

伊藤勝千代(1956). ズワイガニの第2歩脚指節の奇形. 採と飼, 18(11): 347.
 ———(1958). ズワイガニに見られる自切並びに再生脚の出現割合について. 但馬の生物, (10): 4—5. [謄写刷]
 ———(1960). 再び山陰沖から採集されたズワイガニの奇形. 採と飼, 22(4): 123, 125.
 ———(1965). ズワイガニに見出された奇形2例について. 日水研報, (14): 91—93.
 岡田 要(1954). 現代の生物学第2集, 発生. 共立出版, 283—342.